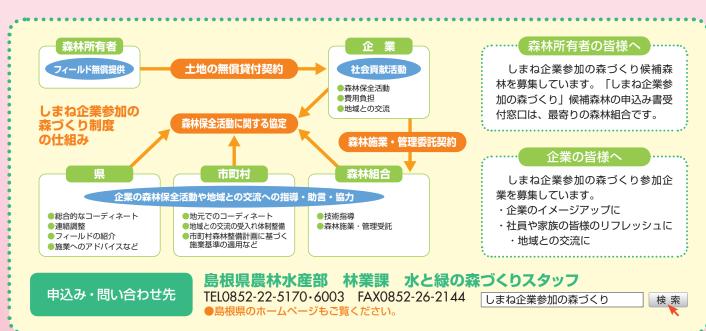




島根県では、企業が 森林保全活動に参加し やすい環境整備を目的 に「しまね企業参加の 森づくり制度」を創設 し、企業による森づく りを推進しています。 この度、この制度の

5例目の企業として、山陰酸素工業㈱と森林保全活動に ついて協定を締結しました。 また、企業による森林保全 活動の一環として、キリンビ バレッジ㈱による森林保全活 動支援の自動販売機が、県庁 に引き続き西ノ島町役場に設 置されました。この自動販売 機の売り上げの一部が、森林 保全活動への支援を目的に、 西ノ島町及び島根県に寄付さ れます。





平成21年度 「水と緑の森づくり耕」の 使いみちをお知らせします。

目 的

広く県民が享受している森林の公益的機能が失われつつある荒廃林を再生し、水 を育む緑豊かな森を次の世代の引き継ぐための取り組みを一層推進する。

予 算

平成21年度 225,436千円 (平成20年度:356,362千円) 予算額 対前年比63%

事業の内容

■森づくり推進事業

予算額 10,563 千円 (Frk20年8:11,600千円)

- ①森づくり情報交流等
 - ●水と緑の森づくり会議の開催(年4回開催予定)
 - ●季刊誌等による情報交流
- ②森づくりプロデューサー養成及び派遣
 - ●森づくりプロデューサーの派遣、レベルアップ
 - ●しまね企業参加の森づくり制度の推進及び PR

■森づくり・資源活用実践事業

予算額 30,500 千円 (Fd20年度:30,000千円) 県民の自主的な森づくり活動を推進するため、メニューに沿って県民自らが企画・立案した取り組みを支援する。事業の採択は、県民10名からなる「水と緑の森づくり会議」の意見を聞き決定する。

メニュー	事 業 例
森 づ く り ボランティア	ドングリ拾いと苗木づくり、本格的な森林作業、企業による森づくりボランティア/など
森づくり講座	学校単位での森林教室、職場・地域単 位での森づくり活動/など
木材利用による街 づくり	木で公共施設や商店街を県民が集う場所に改装、沿道に木製ベンチ設置、学校や公民館での薪ストーブ利用、荒廃竹林の竹材利用/など
木の利用講座	間伐材を使った親子木工教室、児童ク ラブでの巣箱づくり/など
森林・都市交流	森林ツーリズムの試行、山村と都市の 交流の仕組みづくり/など









●詳しくは、県庁林業課水と緑の森づくりスタッフ、隠岐支庁農林局、各農林振興センター、 各地域事務所へお問い合わせください。



県民参加の森づくり







■県民再生の森事業

(うち国の補助金20,608千円) (平成20年度:276,036千円)

計画面積/800ha (平成20年度: 1,244ha)







針葉樹と広葉樹が混じった豊かな森林へ

荒廃森林の水を育む 緑豊かな森への再生

(対象となる森林)

10年以上間伐がされず荒廃している、36年生以上の人工林や、それらと一体的に整備を行う人工林

内容

不要木の伐採、広葉樹植栽、人工林へ侵入している竹の伐採、 管理道の開設

多様な主体による 森の再生と 県民参加の森づくり フィールドの確保 (国の補助金を活用)

(対象となる森林

公益的機能の発揮と展示・PR効果が期待される手入れ不足の 人工林

内 容

不要木の伐採、広葉樹植栽、人工林へ侵入している竹の伐採

実施主体

NPO法人や、森林整備協定を結んだ上下流の自治体等

県民再生の森モデル事業 (ふるさと納税を一部充当)

対象となる森林

観光地周辺の手入れ不足の人工林、竹林や松くい虫被害地

内容

不要木・枯損木の伐採、広葉樹植栽、竹の伐採



県民再生の森事業 モデル林設置

と緑の森づくり事業の大きな柱として、不要木の伐採等を行う県民再 生の森事業があります。

この事業により平成17年度から平成19年度までの間に1,427haの整備を 行いました。

この取り組みを県民の皆様にわかりやすくお伝えするため、各市町村毎の 幹線道路沿いにモデル林を設置しました。

もしお近くで看板を見かけられましたら、車を止めてモデル林の中へ足を 踏み入れていただいて、整備された森林をご覧ください。













③ 安来市伯太町





》 **4** 大田市温泉津町



5 浜田市金城町





6 益田市美都町



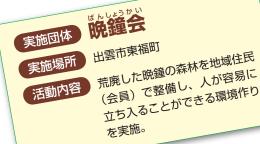


今年度森づくり・資源活用実践事業に取り組まれた 団体である晩鐘会の事務局である常松修さんに今年度 の取り組みについてお話を伺いました。



晩鐘会とは、どんな団体ですか?

10分離会は旧平田市内の作暮・茅原町内の住民で構成され、もともとは柿や水稲農家の親睦団体でした。





● 02 Att 40 ★ ±±



●森林組合の職員を招いて安全作業などについて事前に学習

この事業をどうやって知りましたか?

─ んな事をしたいと森林組合に相談に行ったとこ○ ろ、この事業を紹介されました。





なぜ、この取り組みを行おうと 思いましたか?

晩鐘の森林から流れ出た水は、水田や柿園に供給され、そこで生産されたお米・野菜・柿を私たちが消費しています。森林を守り育てることが私たち自身を守ることにつながると考えたから、この取り組みを行うことに決めました。

実際に作業をされて、どうでしたか?

★ 備段階から大変なこともありましたが、参加した会員からは山が荒れている状態を初めて知ったと言う声や、伐るのが面白くなり、つい伐りすぎる人も出るなど、山の現状を知ってもらういい機会となり、良かったと思います。







今後の活動については?

→ 年度は、比較的入りやすいところから作業を始 → めました。これからも残りの区域について作業 を続けていきます。

また、子どもたちを集めてドングリを拾い、それから苗を育て、それらを山へ植える活動も併せて行っていきたいと思います。



●作業の様子。初めて山に入る人もおられ、 悪戦苦闘だったようです

今年度4回の保全活動が実施され、28名の会員のほとんどが出席されたそうです。それは、森林を守り育てることが私たち自身を守ることにつながるというリーダーの思いが地域の皆さんに伝わり、地域全体で森林を守っていこうという気運が高まった結果だと思います。

この地域のように、森林の大切さを知り、その大切な森林を自分たちで守っていく取り組みが、各地に広がることを期待しています。

私たちもそれらの活動に少しでもお手伝いしていきたいと思います。







今年度設置された県民再生の森事業モデル林の 前で全員集合不要木が伐採され、森林の中が明 るくなりました。

島根県では、広く県民の意見を 聴き、「水と緑の森づくり」に関 する施策展開を行うため、「島根 県水と緑の森づくり会議」を設置 しています。

この度、この会議の委員の方と 実際の荒廃した森林状況や、水と 緑の森づくり税を活用した取り組 み状況の現地視察を行いました。

荒廃した森林の視察



木が細く、混み合っています。土が流れて、根っ こがむき出しになっているところもあります。



平成17年度に森づくり・資源活用実践事業を 活用して、内装の木質化、木製品の整備が行わ れた大田商工会議所(実施主体:石州素舞流)





LOVE GREEN



視察の感想や、水と緑の森づくりの取り組み に対する意見をいただきました。

参加した委員の方から 感想をいただきました

- ●水と緑の森づくり税を活用した事業 の効果が出ていると感じた。
- ●水と緑の森づくり税がいるいるな ところで活用されているのがよく分 かった。
- ●荒れている山がどういうものかよく 分かった。
- ●今日ほどじっくり山を見たことはな い。実際に整備された山を見て間伐 の大切さが分かった。

水と緑の森づくり税に関するご意見募集

水と緑の森づくり税に関するご意見を募集しております。(税を活用した事業について、税 の使われ方について、税そのものについて、税及び事業のPRについてなど) ご意見は下記発行元へご送付いただくか、下記アドレスへメールでお送りください。 E-mail ringyo@pref.shimane.lg.jp





●発行:島根県農林水産部林業課 水と緑の森づくりスタッフ

〒 690-8501 松江市殿町 1 番地 TEL0852-22-5170 FAX0852-22-6167 http://www.pref.shimane.lg.jp/ringyo/mizumori/



